

＜手術関連の取り組み＞

当院では、専門的知識をもった様々な領域の医療スタッフががん治療の主軸となる「手術」を全力でサポートしています。手術の不安、術後合併症の予防、セルフケアの自立や退院後の不安に対する支援など、患者さんのニーズに合わせて対応をしています。

【術前】

手術が決まると、手術のことに加えて手術後のことなど様々な情報が飛び込んできます。混乱しないように、模型やパンフレットを用いてわかりやすく説明をしています。また、術後の呼吸器合併症を予防するために呼吸リハビリテーションを開始する場合があります。どのような場合にも対応できるように、術前に多方面から全身を評価をして、万全を期しています。

認知機能の低下した患者さんの場合、必要に応じて認知症看護認定看護師が病室を訪問したり、入院前の生活状況など他施設と情報交換を行い連携を図っています。

【術中】



手術は、主治医に加え複数名の医師と麻酔科医師、手術室看護師2名によって、細心の注意を払って安全に行われます。手術中は、麻酔で意識のない患者さんの代弁者として、全身管理をしています。

令和元年には、手術支援ロボット「**ダヴィンチ**」を導入し、低侵襲で複雑な手術も可能となりました。

【術後】

術後は、積極的に疼痛をコントロールしながら、早期にもとの生活に戻れるように（歩けるように）自立を支援しています。また、合併症の予防と全身機能の早期回復を目的にリハビリテーションを術後早期から行います。

手術室や集中治療室の看護師の訪問や退院に向けての調整も行っています。



ストーマは、排泄を自分でコントロールできないため、装具の管理が必要となります。自宅で安心して自己管理できるように、早期から練習を開始します。 アルメディアWEBより画像抜粋

【退院後】

ストーマ外来

皮膚・排泄ケア認定看護師が、ストーマ保有者の快適な退院後生活をサポートするために、主治医の外来受診日に合わせて説明や助言を行います。

＜ストーマ外来でのサポート内容＞

- ・セルフケアの方法（装具交換方法、スキンケアの方法など）
- ・装具、ストーマケア用品についての情報提供と選択の基準
- ・ストーマの合併症の予防、ストーマ周囲皮膚のスキントラブルへの対処方法
- ・社会保障制度の使い方、手続きの仕方など